

雜載

思ふことまつに月日はこよろぎの磯にや出てけふはうら見ん

しぎたつ澤 大磯の宿はづれより、小磯と云所迄のうち也、

心なき身にもあはれはしられるしぎたつ澤の秋のゆふぐれ略○中

大磯 小磯 諸越が原 足合の里 此所みなならびてちかく有名所どもなり、

鞠子川 そのかみ源の頼朝此川をわたりたまふに梶原景時がのりたる馬のけ上し水大將の

御馬上にかゝりければ景時取あへず、

まり子川ければぞ浪はあがりけるかく申けるにぞ、打ゑませ給ひて過させ給ひけると云傳へ侍る、

〔延喜式兵部二十八〕諸國健兒略○中 相模國一百人略○中

諸國器仗略○中 相模國甲征箭六十具、胡籬六十具、

〔日本後紀十二〕延曆廿四年二月乙巳、相模國言、頃年差鎮兵三百五十人、戌陸與出羽兩國、而今篠丁

乏少、勳位多數伏請、中分鎮兵、一分差勳位、一分差白丁、許之、

〔萬葉集東十四〕相聞

安思我良能乎氏毛許乃母爾佐須和奈乃可奈流麻之豆美許呂安禮比毛等久、

相模禰乃乎美禰見所久思和須禮久流伊毛我名欲妣氏吾乎禰之奈久奈、

或本歌曰武藏禰乃乎美禰見可久思和須禮遊久伎美我名可氣氏安乎禰思奈久流

和我世吉乎夜麻登敵夜利底麻都之太須安思我良夜麻乃須疑乃木乃末可、

安思我良能波姑禰乃夜麻爾安波麻吉氏實登波奈禮留乎阿波奈久毛安夜思、

或本歌末句云波布久受能比可利與利己禰思多奈保那保爾略○二

母毛豆思麻安之我良乎夫禰安流吉於保美目許曾可流良米己許呂波毛倍杼、